

第52期（2025年12月期）  
決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

2026年2月13日

# 美しくを、変えていく。

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

# 決算の概要

(百万円)	第51期	第52期	対前年	主なコメント
売上高	25,040	<b>17,246</b>	—	売上構成は、美容機器80%・化粧品16%・その他4%
売上総利益 (売上総利益率)	14,215 (56.8%)	<b>9,539 (55.3%)</b>	—	
販売費及び一般管理費	13,587	<b>10,257</b>	—	
営業利益 (営業利益率)	628 (2.5%)	<b>△718 (△4.2%)</b>	—	
経常利益	310	<b>△638</b>	—	
当期純利益	706	<b>△1,197</b>	—	のれん等の減損損失541百万円
1株当たり当期純利益(円)	12.85	<b>△21.77</b>	—	

※第52期は決算期変更に伴い8ヵ月の短縮決算であり、対前年比は比較が出来ないため情報を省略させていただきます。

当期は成長基盤を再構築する変革期であり、収益構造改革と先行投資により一時的な赤字となったが、中長期の成長に向けた戦略的投資であり、持続的な収益拡大につなげていく。

※第52期は決算期変更に伴い8ヵ月の短縮決算であり、対前年比は比較が出来ないため情報を省略させていただきます。

(百万円)	売上高			営業利益		
	51期	52期	対前年	51期	52期	対前年
通販部門	3,330	<b>1,475</b>	—	958	<b>397</b>	—
店販部門	8,068	<b>4,953</b>	—	1,575	<b>875</b>	—
直販部門	7,521	<b>4,855</b>	—	1,065	<b>449</b>	—
海外部門	5,858	<b>5,427</b>	—	1,332	<b>443</b>	—
その他	842	<b>533</b>	—	287	<b>373</b>	—
調整額※	△581	—	—	△4,591	<b>△3,257</b>	—
合計	25,040	<b>17,246</b>	—	628	<b>△718</b>	—

(百万円)

	25年 4月末	25年 12月末	増減		25年 4月末	25年 12月末	増減
流動資産	25,640	<b>24,691</b>	△949	負債	3,539	<b>3,503</b>	△35
現預金	16,968	<b>14,498</b>	△2,469	仕入債務	1,030	<b>1,770</b>	+740
売掛債権	3,943	<b>5,271</b>	+1,327	有利子負債	595	<b>119</b>	△475
棚卸資産	3,725	<b>4,096</b>	+370				
固定資産	3,796	<b>3,198</b>	△598	純資産	25,897	<b>24,386</b>	△1,511
総資産	29,436	<b>27,889</b>	△1,547	負債 純資産	29,436	<b>27,889</b>	△1,547
				自己資本 比率	88.0%	<b>87.4%</b>	△0.6pt

(百万円)

	51期	52期	増減	対前期
営業活動による キャッシュ・フロー	2,215	<b>△1,413</b>	—	税前利益の減少や売上債権の増加等により、収入減少。
投資活動による キャッシュ・フロー	154	<b>△175</b>	—	
フリーキャッシュ・フロー	2,369	<b>△1,589</b>	—	
財務活動による キャッシュ・フロー	△1,178	<b>△964</b>	—	
現金及び現金同等物増減	816	<b>△2,469</b>	—	
現金及び現預金同等物残高	16,968	<b>14,498</b>	—	

※第52期は決算期変更に伴い8ヵ月の短縮決算であり、対前年比は比較が出来ないため情報を省略させていただきます。

# 第52期の進捗報告と 今後に向けた施策

近年の顧客の購買行動の変化を鑑み、BtoC販路で直接お客様へ認知拡大を図ったのち、BtoB販路拡大へ波及させスムーズな市場参入を目指す。

BtoC

(認知拡大・市場開拓)

BtoB

(販路拡大)



継続的な粗利改善による管理コストの削減・最適化を行い、  
持続的な経営基盤を確保

当期3Qは前期に引き続き、直販部門で新たに追加した販路とプラットフォームの開拓に注力。進捗としては、BtoC販路である銀座旗艦店にて過去最高売上げを更新。



当社初となるグローバルフラッグシップストア「YA-MAN the store GINZA」（ヤーマン ザストア ギンザ）が過去最高売上げを更新。

当社の美顔器テクノロジーを日本のみならず、世界に発信するとともに、収益基盤としてのさらなる成長を目指していく。

## 国内

「LDK the Beauty BEST COSME AWARDS 2025」等において、複数のAwardを受賞。その他、「コスメEXPO@NAGOYA」への出店等、ブランド認知拡大を推進。

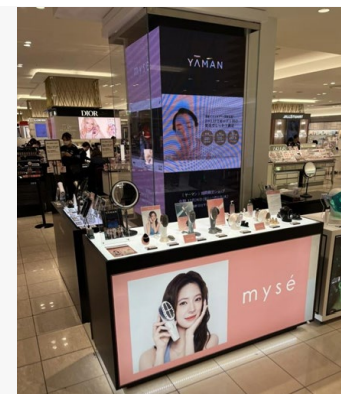
## ▶ 「スムースアイロンフォトイオンプラス」

「保水ヘアアイロン」として人気の『スムースアイロンフォトイオンプラス』が「LDK the Beauty BEST COSME AWARDS 2025」にて「ストレートヘアアイロン部門」で1位受賞。



## ▶ 「コスメEXPO@NAGOYA」

12月下旬から1月上旬にかけて、名古屋タカシマヤ、ゲートタワーモール、@cosmeの3社合同で実施されたイベントにおいて、ポップアップストアを出店し、ブランド認知拡大を推進。



市場ニーズに応えるべく、従来製品のアップデートモデルを開発。

ヘアケア



## リフトドライヤー スマート スムーズアイロン フォトイオン プラス

人気のヘアケアアイテム2点に心  
おどる新カラー“SAKURAピンク”  
が登場。  
ヘアケア市場での更なるシェア拡  
大を目指していく。

ボディケア



## ミュージック EMS

音楽のリズムに合わせてEMS波形  
が変化するエクササイズマシン。  
2013年に発売した『ダンシング  
EMS』を現代のライフスタイルに  
合わせてアップデートし、復刻販売。

市場ニーズに応えるべく、従来製品のアップデートモデルを開発。

リフトケア



## フェイスラインリフトアップバンド

デザインリフトシリーズにおいて、フェイスラインに特化した新商品を発売。  
2019年に『メディリフト』を発売して以降、マスク型のウェアラブル美容機器のパイオニアとして市場を開拓。

mysé

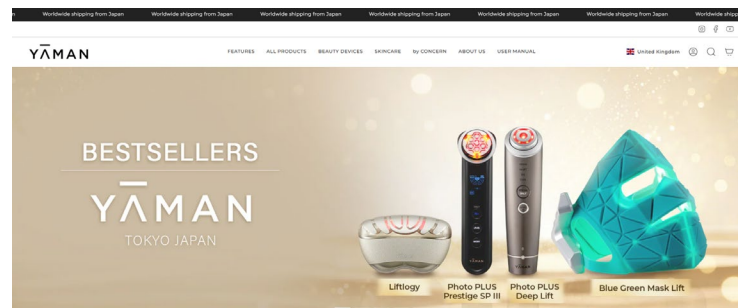


## アイデザイナー

シリーズ累計100万台突破のミーゼより、目元ケアに特化した美容機器を発売。  
あてるだけで簡単ケアが叶う目元特化型の美容機器。

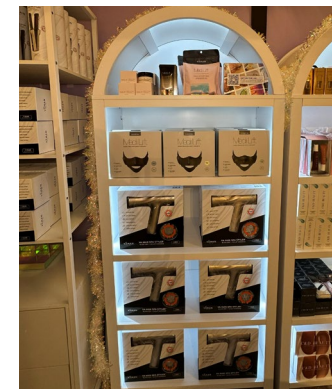
## グローバル

越境ECをローンチ。メディリフトプラスをはじめ、マスク型のウェアラブル美容機器が好調。グローバル展開の加速に向け、順次、展開国を拡大予定。



## 米国

世界最大級の百貨店として知られる、ニューヨーク・マンハッタンのハラルドスクエアに位置するメイシーズ本店1階にて、ポップアップストアを出店。



## ベトナム

ホーチミン・ハノイの2拠点にてイベントを開催し、約5,000名が来場。クイーンリフトティアラのご紹介、並びに同製品の体験会を実施。



## サウジアラビア

フォトプラス プレステージ SP・リフトロジーの認証を取得し、12月から販売を開始。同国における美容機器の本格展開、売上拡大を図っていく。



# 業績及び配当予想

決算期変更（8ヵ月決算）後、初の12ヵ月決算となる53期（2026年12月期）は、「黒字化・利益優先」を最優先事項に掲げ、成長軌道への復帰を確かなものにします。

52期は8ヵ月決算であったため、52期実績を12ヵ月換算した数字と53期予想を比較しております。

（億円）

	52期実績 (8ヵ月)	【参考値】 52期実績 (12ヵ月)	53期予想 (12ヵ月)	対前期 増減額
売上高	172.4	258.7	<b>275.0</b>	<b>+16.3</b>
営業利益	△7.2	△10.8	<b>4.5</b>	<b>+15.3</b>
経常利益	△6.4	△9.6	<b>5.0</b>	<b>+14.6</b>
当期純利益	△12.0	△18.0	<b>3.5</b>	<b>+21.5</b>

当社は現在、53期より売上・利益の再成長のために基盤構築及び新たな事業への投資を強化しながら、設立50周年の期となる2028年12月期に売上高500億円という新たな数値目標を定め、その達成に向けた中期経営計画を**2026年3月中**に開示いたします。

今回の新たな中期経営計画は、「『美顔器といえばヤーマン』の復活」と「『日本発』グローバルで通用する製品・ブランド創り」をテーマに掲げ、長期的な企業価値向上を目指すものです。

この計画を、確実な実行力を持つものとするため、経営層および各部門の責任者間で経営のグランドデザインの根幹に関わる詳細な再検討と調整を進めております。

■ 当期純利益は一時的に赤字決算となりましたが、2025年6月13日公表から、変更はありません。

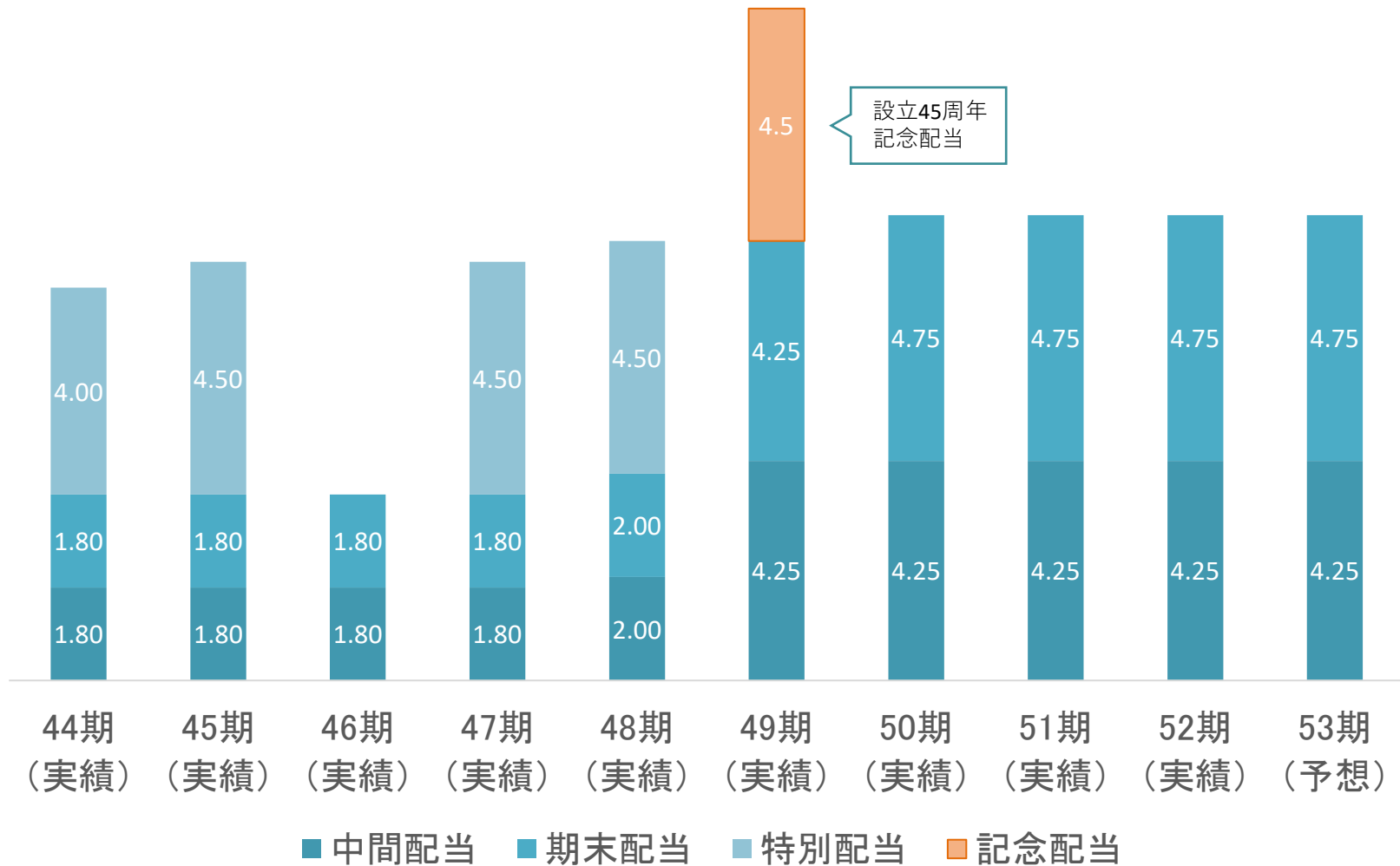
今期の配当予想は、1株当たり9.00円を見込んでいます。

(円／1株当たり)

	53期 予想	52期 実績
中間配当	4.25	4.25
期末配当	4.75	4.75
年間普通配当計	9.00	9.00

## ➤ 配当に関する基本方針

当社は、安定的かつ継続的な実施を基本方針としつつ、将来の成長に向けた投資や財務基盤の強化とのバランスを踏まえ、期中の業績や配当性向を総合的に勘案して決定



(注) 上記金額は、2017年11月1日付の株式分割の影響を加味したものです。

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。